

第8, 9回 ネパール野球交流活動

活動報告書

2003年2月19日～3月11日 (第8回)

2003年8月27日～9月27日 (第9回)

プール学院大学 異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

活動の始まり

プール学院大学では、1996年から海外研修プログラムの一環として、ネパールのポカラ市にあるセカンダリースクール（中・高等学校）で、日本語を紹介するという研修旅行が毎年一回実施しています。

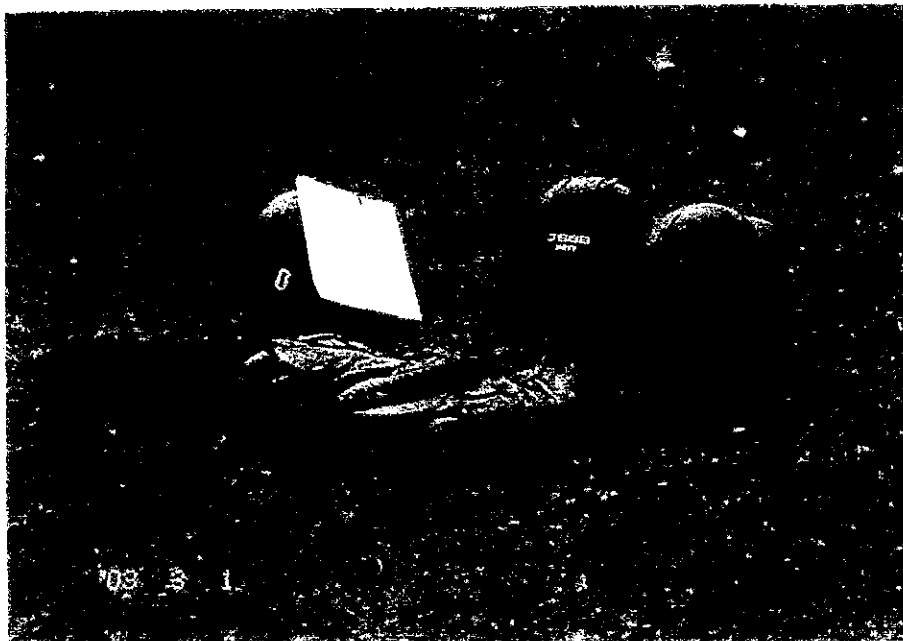
99年3月に実施されたその研修旅行に当事野球部員であったメンバーが参加し、ネパール研修中もキャッチボールがしたいと思い、ゴム製のボールを鞆の中に入れていきました。そして、カトマンズの街頭で野球部のメンバーと共にキャッチボールをして、遊んでいると、歩いている数人が立ち止まり、その姿を珍しそうに見ていたのです。

それは、日本語紹介を行っているネパール第二の都市ポカラ市でも同じことでした。そこから、ネパールには野球がないということがわかりました。

ある日、研修旅行の発案者でもあり、引率者として同行していた松田浩志教授から、ネパールで野球を教えてみないかとの誘いがありました。是非やってみたいという数人が、帰国後知り合いに呼びかけたところ、たくさん協力者が集まり、この活動が始まりました。

そして、ネパールのNGO団体であるESODEC（ネパール社会教育開発センター）の協力のもと、1校目の学校アマ・シンセカンダリースクールとの野球交流活動が1999年9月から始まりました。

現在、私たちは年に2回（春と夏）ポカラ市にある6校のセカンダリースクールの生徒たちとの野球の紹介・交流活動を行っています。また、2001年3月から花倉雄宇也（プール学院大学卒業生）が現地で1年間活動を行い、その後、2002年5月から園田健弥（プール学院大学卒業生）が現地で1年間滞在して活動を行ってきました。



皆様から温かいご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

遅くなりましたが、第8回、第9回交流活動の活動報告をさせていただきます。

第8回交流活動

期間：2003年2月19日～3月11日

場所：ネパール ポカラ市 アマ・シンセカンダリースクール

バルバトラセカンダリースクール

参加者：三上大輔	(プール学院大学 学部生)	3回目
小林洋平	(プール学院大学 学部生)	4回目
山本亜矢子	(プール学院大学 学部生)	4回目
藤岡恭兵	(プール学院大学 学部生)	4回目
杉谷有啓	(プール学院大学 学部生)	2回目
平野真生	(神戸大学 学部生)	初参加
高井貢	(関西大学 学部生)	2回目
小林律子	(関西大学 学部生)	2回目
佐原啓太	(プール学院大学 卒業生)	6回目
園田健弥	(プール学院大学卒業生 現地派遣員)	

第9回交流活動

期間：2003年8月27日～9月17日

場所：上に同じ

参加者：濱田達也	(プール学院大学 学部生)	初参加
三村尚人	(プール学院大学 学部生)	初参加
辻本青空	(プール学院大学 学部生)	初参加
岡耕太郎	(プール学院大学 学部生)	初参加
桑原拓也	(関西大学 学部生)	初参加

第8回の全体の報告、感想

第8回の交流活動は日本人のリピーターも多く新しい学校も増え、計5校6チーム40名の生徒との交流活動を行いました。

今回の目標は、新しい生徒たち（バットラガリスクール、NEWアマシンチーム）には野球の基本ルール、日本野球の紹介、技術の向上などを基本的に行い、オールドメンバーには高いレベルの野球技術、カパーの重要性、ランナーをつけての守備練習、ボール回し、ランニングゲーム、グラウンドの石拾いや整備を行いました。雨の日はそれぞれのレベルに合わせたルール説明を行い、日本野球のビデオや雑誌などを見せ、生徒たちは日本の野球に釘付けでした。日本野球にとっても興味を持っているように見えました。その他、現地で1年間滞在している園田が日本へ帰った後にどのように進めていくか、また生徒の将来について話し合いました。

朝は6時半から8時半まで、夕方は4時半から6時半まで野球交流活動を行いました。全体の感想として、オールドメンバーのレベルは派遣員の園田の活躍により驚くほど成長していました。ホームランが打てるほどになっており、これには日本人メンバーも驚かされました。そして、野球に対する情熱はより一層強くなっており、野球少年が生まれていました。

これは日本人メンバーにとっては非常に嬉しいことでしたが、その一方、オールドメンバーは自分たちの将来とネパール野球の将来をとっても心配して、不安になっていました。特に気になっていたのは園田が帰った後に誰が野球を教え、広めていくかということ、自分たちで広めたいけれどコミティーや親の反対もあり、協力してくれる人がいない、自分たちだけで野球はできないということでした。

これは一方では日本人メンバーを頼りすぎて自立性が全くないということでもあります。しかし、実際に今の状態でネパールに野球が広まるかと言われれば、生徒だけでは難しい状況であるということも事実でした。

新しい学校のメンバーは野球をとっても楽しくプレーしており、それは昔のオールドメンバーと同じように見えました。NEWメンバーも野球を続ければ、必ず今のオールドメンバーのようにもっともっと野球を好きになると思いました。

今回の活動は全力で声を出し、走り、野球をするということを日本人メンバーで話していました。1番簡単で単純なことが1番重要で1番難しく、けれどそれができたときはみんなとても良い笑顔で野球ができて最高でした。

第8回スケジュール

・ 事前研修

出発前に10回ほど事前研修を行い、野球の練習をはじめ応急処置、ネパール語、ネパールの社会、歴史、宗教について勉強しました。

また、プール学院大学内での募金活動や大阪駅周辺での街頭募金活動も行いました。

・ 現地でのスケジュール

日付	午前	午後
2月19日		カトマンズ着
2月20日	フリー	やさしさ日本語学校訪問
2月21日	ポカラへ移動	フリー
2月22日	オープニングセレモニー 試合(Old メンバーVS 日本チーム)	フリー
2月23日	試合(New メンバーVS 日本チーム)	守備練習 ランニング練習
2月24日	グラウンド整備(石拾い)	ルール説明 ボールまわし
2月25日	バッティング練習	フリー
2月26日	ノック	雨のため日本の野球紹介 (甲子園のビデオなど)
2月27日	ノック(ランナー付) 試合(日本チーム VS ネパールチーム)	フリー
2月28日	ノック フォースアウト練習 シリシダセカンダリースクール訪問	試合(バッタラガリ VS アマシン)
3月1日	試合(カリカ VS シリシダ) (バルバトラ VS アマシン)	フリー
3月2日	ノック(内野・外野)	試合(バルバトラ VS シリシダ)
3月3日	試合(日本チーム VS ネパールチーム)	試合(New アマシン VS シリシダ) (バッタラガリ VS バルバトラ)
3月4日	試合(アマシン VS カリカ)	試合(バルバトラ VS カリカ)
3月5日	ポカラ観光	フリー
3月6日	試合(日本チーム VS ネパールチーム)	午前の続き
3月7日	フリー	生徒の家を訪問
3月8日	日本チーム VS ネパールチーム	クロージングセレモニー
2月9日	ポカラへ移動	フリー

ネパールと日本という、国境、文化、言葉を乗り越えひとりの人間として、一緒に楽しみ、悩み、考えてお互いが認め合うことができました。そんなネパール野球は私たちにとって、大きな財産で宝物です。ご協力してくださる皆様、本当にありがとうございます。ネパール野球は今大きく変わろうとしています。私たちはネパールの生徒たちの野球が好きだということを1番大切にして、この活動を続けていきます。



3月10日	カトマンズ大学訪問	フリー
3月11日	フリー	カトマンズ発
3月12日	関西空港着	

試合結果

学校間でボカラチャンピオンカップを行いました。その結果は以下の通りです。

	O.アマシン	カリカ	シリシッダ	バルバトラ	N.アマシン	バッターラガリ
O.アマシン		○ 11 - 10	○ 9 - 6	○ 12 - 3		
カリカ	● 10 - 11		○ 12 - 11	● 6 - 12		
シリシッダ	● 6 - 9	● 11 - 12		○ 10 - 9	○ 14 - 1	○ 16 - 2
バルバトラ	● 3 - 12	○ 12 - 6	● 9 - 10		○ 9 - 5	○ 19 - 1
N.アマシン			● 1 - 14	● 5 - 9		○ 31 - 15
バッターラガリ			● 2 - 16	● 1 - 19	● 15 - 31	

Oアマシン (オールド) Nアマシン (NEWチーム)

オールドアマシン：4年間も野球を続けているので彼らがダントツで上手いです。球もスイングも天下一品！野球を知り尽くしたベースボール BOYS！

カリカ：実力、技術はオールドアマシンに追いついてきていますが、カリカはまだ3年目なのでその分少しだけ劣ります。しかし、試合に負けて悔し涙を流す生徒もいるほど野球小僧がいるチームです。

シリシッダ：投げる、打つはアマシン、カリカに追いついているのだが肝心のパワーと勢いがないため負けやすいチームです。しかし、ピッチャーは抜群のコントロールを持つ！

バルバトラ：実力はまだまだだが急成長しているチーム。この勢いでシリシッダに勝利。

NEWアマシン：野球を始めて半年の彼らは、打つ、走る、取るの野球の基本が大好きなチーム。勝っても負けてもいつも笑顔でプレイしています。

バッタラガリ：とにかく試合に出たい、とにかく目立ちたいといった生徒が集まっていて、試合中に打順や守備位置で喧嘩をし出すチーム。まだまだこれから期待。

日本チーム対ネパールチームの試合結果は以下の通りです。

オールドアマシン、カリカ、シリシダ選抜チームVS日本チーム

4対10 日本チーム勝利

バルバトラ、NEWアマシン、バッタラガリ選抜チームVS日本チーム

1対4 日本チーム勝利

全ての学校を混ぜたポカラベースボールチームVS日本チーム

4対11 日本チーム勝利

- ・ 朝は6時45分～8時30分、夕方は5時～6時半まで練習をしました。
- ・ 練習前にはミーティングを行い、練習の感想や反省、次の練習内容を話し合い決めました。
- ・ 毎日の練習開始前には全員でランニング、準備運動、キャッチボールを行いました。
- ・ 練習後にはクールダウンを行いました。



優勝チームのオールドアマシンにはトロフィーが贈呈されました。

参加者インタビュー

藤岡強兵 （三回目）

今回ネパールを訪れ、元気にプレーをしていた一人の生徒が野球を辞めていることに気づきました。野球を辞め落ち込んでいないか心配になり、その生徒の学校を訪れると、彼はびっくりするくらい身長が伸びていて良い顔をしていました。彼は将来の勉強をするために野球を少しの間辞めていると言いました。でも野球が好きだとずっと言っていました。その少年は野球を通してたくさんのことを学び自分の道を自分で決めたと私には伝わってきました。自分の将来で悩んでいた私が逆に励まされました。自分が野球に出会ったきっかけは本当にひょうなことからでした。ネパールの生徒達も活動のメンバーもそう思います。

野球に出会いたくさんの友達に出会いたくさんのことを感じたことを本当に運が良かったと思います。これからもネパールの子供たちが野球と出会い成長していくことを心から願っています。

小林洋平 （4回目）

私は4月から就職するので、このような形で現地の活動に参加することは恐らく最期です。だから今回は心の底から楽しむことが自分の中の目標でした。今回は生徒数もかなり増えていて、今までの活動とは異なったドラマが生まれ、本当に良い活動となりました。私はこの2年間で4回現地活動に参加しました。続けて参加しているので、初参加のときの気持ちを忘れてしまっているような気がします。1回心の中をクリアにして、自分を見つめ直し、また自分を磨き、思い出が心を貫いた時もう一度あのグラウンドに足を踏み入りたいです。ありがとう。

杉谷有啓（2回目）

今回で二回目のネパール研修でした。初めてのネパール研修の時は右も左もわからなかったけど、今回は飛行場に着いた時からなつかしい思いがしました。それだけ初めての研修時のインパクトが強かったんだと思います。だから今回は果たして初めての研修のような感動を得ることができるかな？と思っていました。しかし、その不安はすぐに消えてしました。それはネパールの生徒達が僕のことを覚えていてくれたからです。僕は一緒に参加した人ほど野球はうまくないし、これといった特技もなかったのに満面の笑顔で迎えて

くれた子供達を前回よりももっと好きになりました。

そして、野球を見てみても上手くなっていたので、園田さんの指導力と生徒達の向上心にも感動しました。もし三回目に行くことがあれば、次はどんな感動を得られるか楽しみです。

三上大輔（2回目）

今回のネパール野球研修は、いろいろなところが見れたような気がします。きれいな景色から始まり、子供たちの心の底からこみあげてくる笑顔や、ボールをキャッチしようとする必死な顔、練習がうまくいかなかったり、試合で負けた時に見せる悔し涙など・・・それらの全てが前回以上に私に感動を与えてくれました。最近私は日本に帰ってきてよくこう考えます。日本で、毎日を何気なく過ごしている私がいて、ネパールでこうして必死で野球というスポーツに向かい合っている子供たちがいる・・・なぜ私は何回もネパールにきているのか？きっとそれは、自分が何かに対して必死になりたいからだと思います。私のネパール野球研修は今回で終わるかもしれません。けれど、もし次の機会があつて子供たちの前に立つことがあったなら、その時は、今回言えなかった「ありがとう」の言葉を伝えようと思います。

小林律子（2回目）

前回の参加から約一年半の間に、OLDメンバーと呼ばれるようになった子供たちは、野球のプレーでも、人間的にも、予想以上に大きく成長していました。もう一度会うことができ、その成長した姿を見ることができて、本当に嬉しかったです。加えて、今回はたくさんさんのNEWメンバーにも出会うことができました。広がっていったのがとても嬉しかったです。みんな一生懸命で、教えあったり、おもいきり楽しんだり悔しがったり、かわいくてかわいくて、毎日とても楽しかったです。また会いに行きたいです。

平野真紀（初参加）

ネパールに行けたこと、子ども達と出会えたこと、子ども達と一緒に野球できたこと、ほんとによかった。心からそう思う。

子ども達と一緒にいると自分が大切なことを忘れてることに気付いた。とにかく楽しむこと。子ども達は野球に対して、自分の夢に対してただがむしゃらに今っていう時間を精一杯楽しみながら向かっていく。大切なことを気付かせてくれた子ども達ありがとう。最後にQさん、啓太さん、一緒に参加したみんな、お世話になった皆様本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

山本亜矢子（4回目）

半年ぶりに見た生徒達の笑顔は何一つかわらない素敵なものでした。私はあの笑顔に出会い、からっぽだった自分の心が満たされました。彼らの笑顔に出会えた私は、とても幸せものです。私はこの活動に出会い、彼らに出会い、生きているということを実感できるようになりました。私に「生きる」ことを教えてくれたこの活動は本当に素敵なものです。

この活動を支えてきていただいた皆様の気持ちを無駄にしないよう、日本メンバーが一丸となり、この活動を進めていきたいと思います。

彼らの笑顔に会いに、いつかまたネパールに行きたいです。

第8回ネパール野球交流活動





第9回の全体の感想、報告

今回、ネパール野球の活動に集まった日本人学生は、マネージャーを含め5名で、全員が初参加でした。大きな不安と小さな期待を抱きネパールのグラウンドへ足を踏み入れました。

最初に、ネパールの生徒達が行う普段の練習風景を見学する事にしました。私達の目に飛び込んできた練習風景は、私達同様に初参加の生徒も居たせいか、想像以上に散々な物でした。そんな練習風景を目の当たりにした私達は、これからの練習内容や、何から指導するか悩みました。悩んだ結果、次の日の練習から、チームを『A』と『B』の2つに分けることにしました。Aチームには野球経験者を集め、Bチームには初参加、もしくは野球を始めて間がない生徒を集めて、『野球がうまくなりたいのか』（私たちに、野球がうまくなる為の真剣な指導を望んでいるのか）、『野球を楽しみたいのか』（私達と一緒に野球で遊びたいのか）という、2つの問いを生徒たちに投げ掛けてみました。すると、すぐに『野球がうまくなりたい。ちゃんとした指導をして欲しい。』という答えが生徒たちから返ってきました。

それは、私達が期待していた答えでした。Aチーム・Bチーム共に2名ずつ、私たちは指導者として入りました。そして、ここから私たちの野球が本当の意味で始まりました。

練習内容は、全員でジョギング・準備体操・キャッチボールをしてから、Aチーム・Bチームに分かれ、Aチームではノックやバッティング、ボール回しなどを主とし、Bチームではゴロの取り方やボールの投げ方、バットの持ち方など、野球に欠かせない基本をくり返しました。時間が許す限りで生徒1人ずつ指導し、Aチームに関しては、私達が日本で教わってきた技術を分かりやすく教えもしました。Aチームは、問題点が少なくスムーズであり、私達が指導した事に対する理解が早く、言葉で表すなら“きれいな練習”という日が多かったです。一方、Bチームは、Aチームよりも比較的人数が多く、中でも幼い子ども達が半数以上を占める為、私達を悩ませるチームとなりました。さらに、Aチームは、自分のグローブを持っている生徒が圧倒的に多かったのに対し、Bチームは、誰1人としてグローブを持っていない、日本から持ってきた道具の数にも限りがあり、ボールは1人に対し1個貸す事ができましたが、グローブは2人に1つぐらいしか貸す事ができないため、素手でゴロの取り方を練習するグループと、グローブを使ってキャッチボールなどをするグループに分かれ、10分や20分単位で交替するという、困難を極める練習状態となりました。そうして練習が進められていく日が増すごとに、いろんな事が見えてきました。Aチームは、ただただ『うまくなりたい』という一心であり、やる気をすごく感じました。その練習の中に自分なりの“楽しみ方”を作り出し、楽しみながら上達していく姿が見受けられました。Bチームでは、“うまい選手になる”という夢が遠い物と化して“自分が楽しむ”という事に重心を置いて練習を行い始める生徒もいました。そんな彼らの練習は、練習という

より、むしろ、遊びという言葉が当てはまりそうな練習風景でした。しかし、同じ B チームでも、諦めずに一生懸命“上達”に向かって練習を行う生徒の為に私達は全力を尽くしました。ある日、A チームの生徒 1 人が、指導者として B チームに来てくれました。そこで、私達が生徒に野球の技術を教えるだけではなく、私達が生徒に教えた技術を、生徒が生徒に教えていく事により、さらにその技術が輝いていく事を私達は学びました。そのようにして教えていけば、たくさんの良い選手が増えていく事でしょう。そして、ネパール野球は、将来、ネパールの立派なスポーツの 1 つとなるでしょう。

生徒達のネパールに野球を広めたいひた向きの気持ちが、重々、私達に伝わってきました。そして、お互いに本気でぶつかって最高の 2 週間を送る事ができました。たくさんの生徒が頑張った成果が練習や試合などで発揮されている事に、本人達は気付いていないかもしれませんが、私達は身を持って、その成果を感じる事が出来ました。野球がネパールで立派なスポーツの 1 つとなる日は、まだ先の事かも知れませんが、私達や生徒達が練習や試合を重ねたこの 2 週間は決して無駄になる事は無く、『野球はネパールで立派なスポーツの 1 つ』という大舞台にめがけて、今もなお、走り続けています。



第9回スケジュール

・ 事前研修

出発前に10回ほど事前研修を行い、野球の練習をはじめ、応急処置、ネパール語、ネパールの社会、歴史、宗教について勉強しました。

また、天王寺駅周辺での街頭募金活動も行いました。

・ 現地でのスケジュール

日付	午前	午後
8月27日		カトマンズ着
28日	やさしさ日本語学校訪問	カトマンズ大学訪問 ホームステイ先へ移動
29日	ホームステイ	ポカラへ移動
30日	Teej festivalのためフリー	フリー
31日	オープニングセレモニー	フリー
9月1日	フリー	ネパールダンス
2日	練習	練習
3日	練習	練習
4日	練習	ネパールダンス
5日	練習	練習
6日	フリー	フリー
7日	練習	ネパールダンス
8日	練習	練習
9日	練習	練習
10日	練習	ネパールダンス
11日	練習	練習
12日	シリシダセカンダリースクールで 運動会	ネパールダンス
13日	日本語、日本文化紹介グループの クロージングセレモニー	対抗試合 クロージングセレモニー
14日	カトマンズへ移動	
15日	カトマンズ観光	
16日	フリー	カトマンズ発
17日	関西国際空港着	

参加者インタビュー

濱田達也（初参加）

好きな言葉：ラムロネ（ネパール語で素晴らしいという意味）

今回ネパール野球に参加して、多くの文化を学んできました。

ネパールには日本に無いものが多く見るものすべてが新鮮でした。野球を通じて日本人もネパール人も関係なく会話したり遊んだりしたことがとても楽しかったです。

野球をしながらヒマラヤ山脈が見ることが出来て、とてもさわやかな気持ちでプレーできました。

今でもネパールの少年たちの笑顔が頭から離れません。もう一度、あの笑顔に会いに行きたいです。

ネパールとの異文化間交流がずっと続くことを願っています。

三村尚人（初参加）

好きな言葉：めちゃめちゃいいねー！！

今回初めてネパール野球に参加して思ったことは生徒たちの野球のレベルはまだまだですが、野球に対する気持ちはすごいと感じました。みんなとても楽しそうに野球をしていたので、本当にネパールの子供たちと野球ができて良かったと思います。また、ネパール野球に参加できれば、もっと子供たちに野球を教えてネパールに野球というスポーツを広めていってほしいと思いました。

本当にネパール野球に参加して良かったと思います。これからもネパールに野球少年がいる限り一生続くと思うのでこれからも宜しくお願いします。

協力して下さった皆様ありがとうございました。

辻本青空（初参加）

好きな言葉：先手必勝

今回、私を含めネパール野球活動の参加者がみんな初参加だったので不安と期待との間にはさまれ、手さぐりのスタートとなりましたが、ネパールの子供達と野球の練習を重ねる度に段々と野球にふさわしい形が出来てきて野球を皆で楽しむことが出来ました。

辛いことが何度もありましたが、辛いことも楽しいこともすべての出来事が良い思い出となって日本へ持って帰って帰ってくることができました。また、私が落ち込んでいても子供達が一生懸命かつ楽しそうに野球をやっている姿を見ると元気がでました。子供たちは私に色んなことを無意識のうちに教えてくれていました。

日本に帰ってきて気づくこともありました。それはすごく簡単であり単純であることがほとんどですが、あのネパールの子供たちと野球を楽しんだ空間と、子供たちが教えてくれたことを絶対に忘れません。

ティミ村

私達は、歴史の古い村、ティミ村を訪れ観光しました。ティミ村は、200年ほど前に造られたというレンガ造りの家が立ち並ぶとても素敵な村でした。家と家の間に日本の小さな公園ほどのスペースがいくつかあり、そのスペースで大きなお皿や、壺などの陶器を焼いていました。毎日、作業をしているそうです。子どもからお年寄りまで、灰の匂いが包む空間で、のんびりと過ごしていました。私達も、入り組んだ細い路地を歩き、人と会えば『ナマステ』と挨拶をかわし、日本では体験する事が無いだろうと思われるアットホームな暖かい空間に包まれ、“貴重な村に来た”という感覚を覚えました。

やさしさ日本語学校

カトマンズにあるやさしさ日本語学校には、日本から持ってきた本などを寄付しました。やさしさ日本語学校は日本語に感心を寄せる生徒達に日本の歌「上を向いて歩こう」などを教え一緒に歌ったり、けん玉で遊んだり、折り紙と一緒に鶴を折ったりしました。覚えて間もない日本語を使って話してくれる事がとても嬉しく思いました。三階建ての小さな学校の屋上へと行き、生徒達と日本語で会話をかわしながら用意して下さったビスケットと、紅茶を飲みながら楽しい時間を過ごしました。

山の上の学校

引率のマッセルホワイト先生が、里親として学校資金の援助をしている2人の子どもに会いに山の上にある学校を訪れました。子ども達が通う学校は山の上であり、道という道が無い山を登りました。山は険しく、歩きなれていない私達は、とても疲労を感じました。ヒルに血を吸われるなど、虫と戦いながら学校を目指しました。学校に着いた時には、みんなくたびれていましたが、20名程いる学校の子ども達が私達に花を手渡してくれ、その輝かしい子ども達を見ると、その可愛さに疲れている事も忘れていました。子ども達に日本から持ってきたお手玉と折り紙を教え遊びました。お手玉を子どもにプレゼントしたら、1人の子どもが、お手玉の中身が小豆だと知り、「この小豆を土に植え育てて、食料にする」と言いました。私は、考えた事も無い発想に驚き、異文化という物を感じカルチャーショックを体験しました。そして、帰る時間となり、子ども達に手を振り私達は山を下りました。途中、険しい道や急な坂を慎重にゆっくりと下る私達の横を、さっきまで学校に居た子ども達が猛スピードで風のように駆け抜けていき、私達は全員同時に感心しました。

桑原拓也 （初参加）

ネパール研修を経験して。

正直に言って、自分で参加する事を決めたものの出発の日が近づくにつれて不安がどんどん大きくなっていきました。初めてに近い海外旅行、初対面に近い人との集団生活など、何とかなるだろうと思いながらもこれから始まる生活に希望だけを持つことは出来ませんでした。けれど日が経つにつれてメンバーとも徐々にお互いを理解し合い、仲を深めることができ、他の大学に貴重な友達を持つことが出来ました。

野球を教えることはとても難しいことでした。ただでさえ他人に物事を教える経験など日本であまりした事がない自分が、言葉が十分に通じなく、しかもその子達の生活習慣を理解出来ていなかったのが苦勞しました。特に野球をあまり理解していない小さい子供たちを指導することが大変でした。ルールの説明をうまく伝えられない時に自ら教えに来てくれた古いメンバーに助けられながら何とか研修を無事に終わることが出来ました。古いメンバーたちはとても野球を愛しているのが伝わってきました。しかし専用のグラウンドなんて物はなく、道具も全然足りていない状態です。日本で当たり前のように出来る事がネパールでは大変な努力をしないと出来ないことを肌で感じました。

この活動の目的である、野球を通した文化交流はうまくいったと思っています。ネパールの人はとても日本人に好意を持って接してくれました。文化も言葉も習慣も違う人間同士が短期間で一つのスポーツを通してこれだけ仲良くなれることはほんとに素晴らしいことだと感じました。今も自分の名前を呼んでくれるあの子たちの大きな声を忘れることは出来ません。帰国して3ヶ月がたち今となってはまるで夢のようですが心からいい経験が出来たと思っています。引率の先生方、この活動をずっと支えて下さった方々にとても感謝しています。

ネパール野球の将来についての話しあい

ネ：今回も日本から来てくれてありがとう！

少しこの生徒や学校に問題があるからその話し合いがしたいです。ここネパールではまだ野球は有名じゃないので試合ができません。野球の将来はどうなるのかな？？

日：野球を広めていって国に認めてもらったら野球が仕事にもできるよ。だから、君達しただいだよ。

ネ：でも時間がかかるよ。野球に時間を費やして家の仕事も手伝えないし、勉強もできないよ。

日：どれくらい時間を費やしてるの？

ネ：1日4時間くらいだよ。

日：みんな練習来てるの？

ネ：10人くらいかな。

日：いつも来ない人は野球のミーティングに来なくてもいいよ。練習している時に遊んでいる生徒は邪魔になるからね、やる気も感じられないし。

ネ：そうだね。

ネ：ネパールで野球は有名になるかな？？

日：有名にする事は簡単なことじゃないよ。10年間続けた僕達でさえプロにはなれないんだから。だから、今することは自分たちが新しい子達に教えて、違う学校の子にも教えて増やしていったらいいんだよ。

ネ：けど、ポカラしかやってないし、みんな見るだけや、興味があるだけだったりするんだ、有名になれないよ。

日：一つのテクニックを教えるだけで1回の練習を使うんだよ、時間はかかるよ。もっと長い目で見なきゃ。

日：実際、ネパール野球の野球レベルは日本の強い小学生くらいなんだ。まだ、始まって5年しかたってないから、このレベルなんだけどネパールの中では強いチームだけど、まだ仕事するには時間がかかるね。

ネ：カトマンズとかにも野球が広まっていったらどうやって、マネージメントするの？？お金がかかるよ。

問題は広め方とお金なんだ。

日：そうだね。日本チームもみんな悩んでいるんだ。

(道具について)

日：野球の道具は自分達でしっかりと管理してください。大切に！

ネ：学校に置いてても管理は難しいです。学校は協力してくれないし、この活動を理解してくれないし・・・

モハン：有名になりたいから。

オッサン：日本人は野球を広める活動をしているから、その影響で・・・野球は楽しいし。

ブルナ：もう、5年続けているけど今まで何も出来なかった。僕の家は貧しいから海外に違う仕事しに行くけど、それまで野球は続けるつもりだよ。

バブー：日本人がきてくれて気分がいいから。僕も海外に仕事しに行くけどそれまで頑張るよ。

ナラヤン：初めは興味があって、家族は反対してるけど、良い選手になりたいね。

シャム：僕ん家も貧しいです。でもできるだけ野球を広める活動をしたい、夢が叶う時は年を取っているかもしれないので心配なんだ。

日：みんな野球は自分の為にしよう！楽しかったら広めたらいい！仕事にするのにも自分の為なんだから。国のためじゃなくて、お金のためじゃなくて自分のために！！

ネ：仕事がないから生活できないだよ。

日：まだ、野球初めて5年なんだから・・・夢は持つことは良いことだけど難しいのは分かるよ。だから今、君達は下の子に広めていったらいいんだよ。

技術を覚えてそこから国に広めよう！各チームリーダーはもう一回しっかり見なおしてください。バルバトラのリーダーは悪い例です。今は遊びからスポーツに変わる難しい時期ですが、日本人メンバーも頑張るので、君達も頑張ってってください。



日本人とのミーティングの様子

日：それじゃ、自分達で管理しなさい。

日：道具は日本から送れるけどお金は送れないよ。募金箱をおいたらどうですか？

ネ：誰も入れてくれません。

日：やる前に決め付けないでやってみたら？行動しなきゃ！

ネ：はい、やってみます。

ネ：他の問題はありますか？

日①：グラウンドをもっと綺麗に整備すれば上手くなる可能性はあるよ。

今の君達が技術を磨いてってクラブチームのコーチなどになったら将来仕事つながるかもね。

だから、まずは国に野球を認めてもらったらお金になるかも知れないね。野球は世界的に有名なスポーツだからね。

日②：僕は野球で飯を食っていこうなんて全く思っていないよ。僕はこんなプログラムにも来れて、友達もいっぱいできたしメリットはたくさんあるよ。お金じゃなくて、楽しさだよ。勉強とかおろそかになったかもしれないが絶対に気がつかないうちに人間ができてるんやで。

ネ：僕達は将来が心配なんだ、ネパールには仕事はないし、野球で食べていけないかな？

日：将来、野球で食べていきたいのなら方法はいくらでもあるよ、海外にいくとか。

ネ：この前もとても良い選手がいたけど仕事がないから海外にいった野球じゃなくてお金をかせぐために仕事しに行ったんだ。ネパール野球から逃げた友達がいるんだ。

ネ：このメンバーで6人くらい本気でプロになろうとしてる子がいるんだ。

日：野球の楽しさを広めるにも、野球を金につなげるにも、まず野球を広めなきゃ。君達はお金が欲しいだけなの？

ネ：野球を職業にしたいんだよ。ネパールに仕事はないし・・・

ネ：ポカラの1部分で有名になったけど、他の市に広めるにも予算がないんだ。

日：お金じゃなくても手紙とかでも広めることはできるよ。

日：野球を広めることについて簡単に考えすぎです。全然甘い。ルールブックもたくさん読んでプレーにつなげるぐらい出来なくちゃいけないよ！将来、金につなげていくという考え方は甘すぎる！

日：何の為に野球をしてるんだ？

サントス：将来ネパールで野球を有名にするため。

スシル：野球は新しいゲームで有名になったら先輩になれるから

日：それは人の上に立ちたいから野球をやっているの？

スシル：はい。

日：スシルはこの2週間の練習内容ではプロにはなれないよ。もっと練習しなきゃ。

スペイン：将来、仕事としてできればいいと思う。

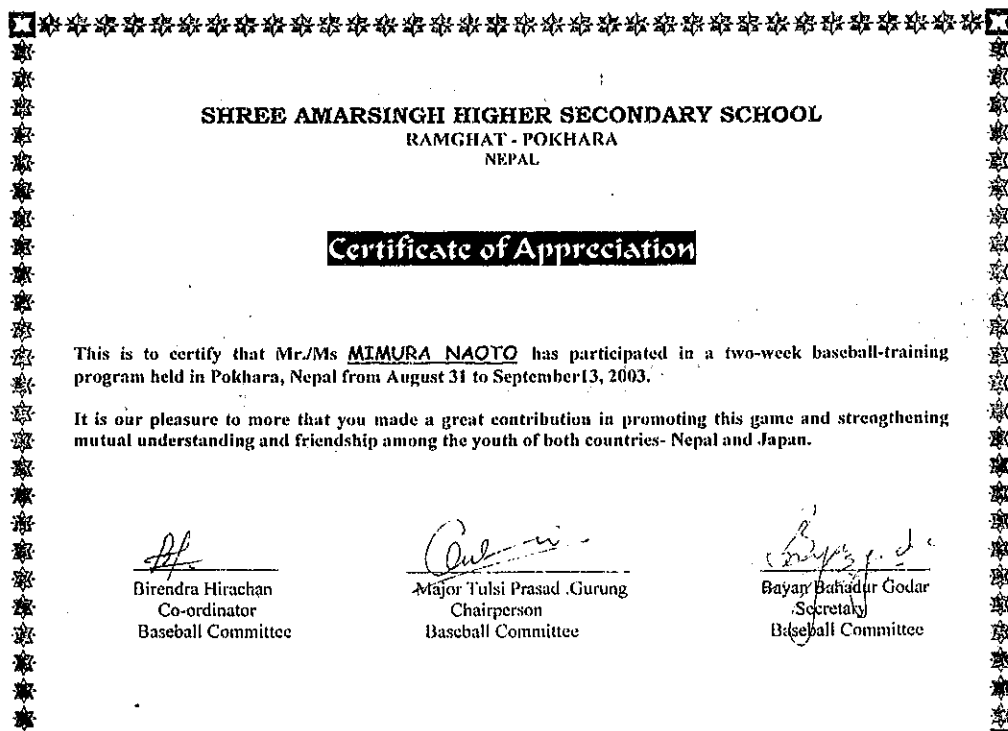
日本チーム VS ネパールチーム 試合結果

9月2日 日本チーム 7 : 1 ネパールチーム

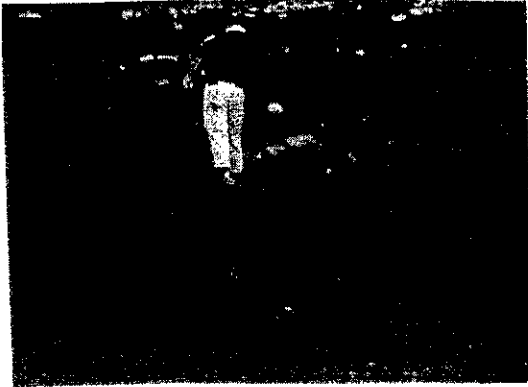
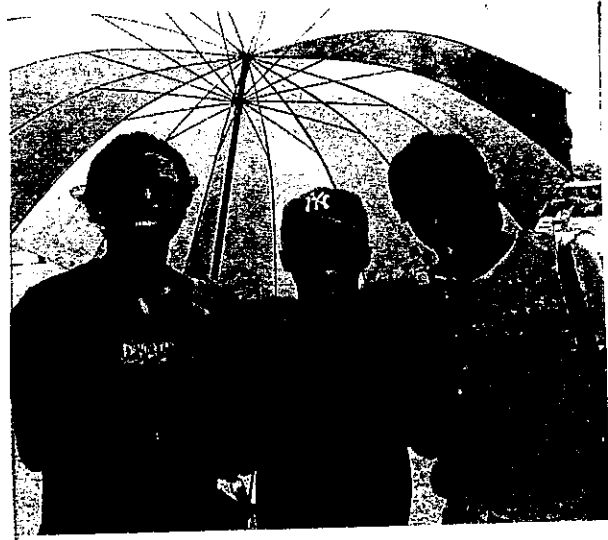
9月7日 日本チーム 3 : 3 ネパールチーム

日本人チームに比べると、まだまだ実力が足りないネパールチームでしたが、練習に打ち込む熱心な姿の中に、自分の楽しみ方を付け加えて野球を体中で楽しんでました。野球を楽しみながらも、確実に実力がついていくのがわかりました。

彼らが数年後大人になったことを考えると楽しみです。



クロージングセレモニーで、ESODEC から感謝状を頂きました。





園田健弥（プール学院大学 卒業生）の1年間の活動報告

（活動報告）

2002年5月から1年間ネパールに滞在していた園田健弥の活動報告をします。まずアマシンのオールドメンバーはみんな仕事や勉強でそれぞれの進路に進んでおり、野球を卒業していった生徒がたくさんいます。そこで、アマシンのNEWチーム（5チーム目）を教えました。その後、バッタラガリスクール（5校目）を教えはじめました。アマシン、バッタラガリにおいてはできるだけ、長く野球を続けられるように5、6年生（11～13才の生徒）に対して野球を教えました。



朝は6時半から8時半。夕方は4時から暗くなるまで。5校6チーム計50名の生徒と野球をしました。

主な練習内容は、ノック、守備、バッティング、走塁、ボール回し、ティーバッティング、ランニングゲーム、などを行いました。1年間で約300回の練習を行い、平均人数は約15名程度で彼らのレベルに合った練習内容をしました。そして、毎週土曜日は学校対抗試合または、全部のチームをまぜて野球の試合をおこないました。

野球に興味をもっている生徒がたくさんいるので楽しくいつも笑顔で野球をすることができました。

ネパール語の野球ルール本がないので僕と生徒でネパール語のルール本を作り、生徒と各学校の校長先生とスポーツの先生に野球を理解してもらおうとさしあげました。また僕と生徒はアマシンのグラウンドのフェンス作りを考え校長先生とヒラチャンさんに協力してもらい、現在少しずつですがフェンス作りが進んでいます。そこにポカラベースボールクラブの看板を立てる予定です。これからネパールで野球を広めようとする、グラウンドの危険性などを考えて必要ですが時間がかかるので、この活動を支援してくださっているネパールの教育団体（ESODEC）のヒラチャンさんにネパールのお金で10万ルピーを預け僕が帰ってからもフェンス作りを続けると話し合いました。そして、今回の第9回の活動時はフェンスの1部分が完成しているとのことでした。

そしてポカラだけでは、ネパールに野球は広まらないとの意見から、首都であるカトマンズ大学（以下KU）でも約1ヶ月間野球を教えました。その時点ではあくまでも試験的に行っていましたが、KUの学生達も野球が楽しい、新しいスポーツができて嬉しいと言ってくれていました。又、ネパールで初のポカラ対KUの野球交流試合を行い現地の新聞にも大きく取り上げられました。

(問題点、苦勞したこと)

一人で活動していて苦勞したことはたくさんありますが中でも 1 番苦勞したのは、ネパールには日本のようなシステムがないということでした。それは政治や医療、教育機関といった国の基礎が成り立っていないということです。一人でネパールに野球を広めるということは日本とネパールの発展の違いが大きな問題でした。文化の壁より言葉の壁よりも大きな問題でした。この国は日本と比較するとなにもできあがっていない状況です。

この国に新しい物を作るということが何年後にどういう風に発展するのか、日本人とネパール人が触れ合って野球をするということがネパールの生徒にとって将来なにに繋がるのか、そしてどういう風に感じることができるのか？と言ったものが、学生にしても先生にしても理解できていない部分がありました。

例えばネパールでは学校内で運動会やクラブ活動というシステムが全くできていません。もし日本のように学校にたくさんのクラブ、対抗試合、学校間の試合、または地区大会などがあれば、野球にしても同様にできていたと思います。そうすると、もっと多くの人が野球に触れる機会ができ野球を知ることができたと思われます。そして、学校の中から野球が広まるものと思われます。残念ですが僕や花倉さんが活動したのは「日本人が野球を教えている」という形のものでポカラの学校自体は動いていない状態です。

学校間でコミティーをつくり先生や生徒同士で野球を広めるように進めたかったのですが、まだネパールでは難しいことでした。そして、その状況を変えてあげられなかったのが残念です。またそれが僕の方で少しでも変えてあげれたときは嬉しかったしやりがいがありました。

僕は生徒に夢を与えることができると信じて活動しました。だから僕は新しいものを目指し、常になにかをつくっていきたくて考えて活動しました。

しかし、生徒も何かを作るといって、新しいことに挑戦するということが後にどういう風に発展していくのかわからないので実際に動けていません。なぜならネパールには何もないから、何もできていないからです。

ミーティングでは良い話ができるのですが、本当に行動をおこすのはこの国は日本よりも数段難しいです。だから常に僕は生徒に言いました。失敗してもいいから諦めるな、やってみろと。僕と花倉さんが見本になるから、そのとおりにやってみろ、俺と花倉さんがやったことを忘れないで欲しいと伝えました。

僕は野球の楽しさ以外にも伝えたいものがありました。それは僕の 1 年間やっていたことです。何かに挑戦するということ、諦めないということ。それはただ野球だけでなく生徒の人生においても大切なことです。そして野球をすることによって、お互いの存在を認め合う心、協力し合う心、団体プレーの意義を感じて欲しかった。そしてそれを将来に活かして欲しいと考えて活動しました。野球が好きで広めたいなら自分たちが作ったらいい

い、待っていてもネパールに野球は広まりません。ポカラの生徒は本気で野球を広めようとしていますが、実際に生徒たちは「野球は日本人がいないとできない」と考えています。これは僕と花倉さんが1番恐れたことで生徒にとって1番良くないことです。

しかし、僕や花倉さんがいない今、主役は生徒しか残っていません。生徒たちは自分たちだけで野球を広めようとしていますが、どうなるかは本当に僕でもわかりません。しかし土台はあります、野球が好きで広めたい、有名にしたいという強い意志を生徒は持っています。後はこの4年間の活動、僕や花倉さん、この活動に参加したみんなの意思がどれだけ伝わっているかだと思います。

(この活動に参加して感じたこと)

僕はいつも生徒と話す時、生徒に何かを伝えたい時は心で話すようにしました。心で話せるようになるのに半年かかりました。ネパールと日本という文化や言葉の違う人間がいっしょに生きていく中で必要なのは、野球でも感じられる協力し合う心、認め合う心が大切です。また人間は一人では生きていけないということ、そして人にやさしくしてもらうことが純粋に嬉しいということ、だから自分もやさしく人と接したいと思ったこと。一人で活動をしていないと感じないことだと思います。僕はいつも大好きな友達とネパールの生徒に囲まれて1年間笑って過ごすことができました。こけたときもあったけどその時は友達に助けられ自分の足で立った。

この活動に対して大きな誇りを持って活動しました。小さい時から野球が好きで続けてきて良かったです。そして、この活動に参加してできた友達、ネパールの生徒に心からお礼をいいたいです。僕はみんなと出会えて幸せです。この出会いは大切に一生の宝物にしたい。これからも色んな人と出会うけど人と出会うことは奇跡であって絶対に大切にしたいと思う。

(ご協力者の皆様へ)

今でこの活動は4年間続けることができます。これは協力者の方があつてのものだと本当に感謝しています。御協力者の皆様本当にありがとうございました。まだまだいろいろな問題はありますが、ネパール野球は確実に進歩しており、そして将来ネパールにプロ野球やオリンピック出場などを夢見て活動を続けたいと思っています。この1年間は本当に宝物になりました。そしてネパール野球にとっても大きな進展です。皆様のご協力は確実に学生に届いており、それを学生が忘れてしまっている時は厳しく接する時もありました。

学生も御協力者の方に一度お会いしたいと言っています。ぜひ、一度ポカラに行ってネパール野球をみてもらいたいです。本当にご協力ありがとうございました。

興国高校との国際親善試合

大阪府の興国高校の学生方とポカラベースボールチームと親善試合を行いました。

ポカラの学生も始めてプール学院大学以外の日本人と試合ができるとあって喜んでいました。なお、興国高校から野球道具を頂きました。

試合結果

ポカラベースボールクラブ	0	0	0	2	0	計2
興国高校	0	2	1	3		計6



この試合はソフトボールのルールで行いましたのでポカラチームは慣れないボールを見ることが難しくいつものバッティングができませんでした。来年は「野球のルールでやろう!」「野球のルールなら絶対勝てる!」と意気込んでいました。

興国高校からも、来年もまたやりましょうと言ってもらい、このような形でプール学院大学以外の学校と交流する機会が、これからもどんどん増えていくことを期待しております。



カトマンズ大学について

プール学院大学と提携を結んでいるカトマンズ大学に派遣員である園田が野球を教えに行きました。そして、ネパール初のポカラVSカトマンズ大学の試合を行いましたので報告させていただきます。

カトマンズ大学は昔から学生に野球を教えて欲しいと引率員である松田教授に要望がありましたので、ポカラだけでは野球はネパールに広まらないとのことから短期間ですが園田が野球を教えに行きました。当大学とカトマンズ大学のコーディネーターで、やさしさ日本語学校の校長先生であるキラン先生に協力してもらいました。これはあくまでも試験的に行い、大学の生徒の野球に対する取り組み方や、大学の委員会などが野球をどの程度うけとめてくれるかを見るために行いました。

カトマンズ大学の生徒は16歳～24歳までで高校と大学が繋がっていて800人の生徒が勉強しています。この大学はネパールの中でもとてもレベルの高い学校で勉強は難しくその分就職率も良い学校です。

野球をした学生は18歳～24歳までの学生で学内の寮に入っている学生です。

ポカラと同じように朝は6時半から8時まで夕方は4時半から暗くなるまで野球をしました。彼らもポカラと同じように新しいスポーツに興味をもって、約50名ほどの学生が野球をしました。彼らはポカラと比べて体も頭も大人ですぐに野球を覚え楽しんでいました。そして、野球の道具などはポカラよりも大切にする姿勢がみられました。自分の意思で将来のための勉強している学生たちからポカラとは違った印象を受けました。

学生たちは「新しいスポーツだから興味がある」「ネパールに野球が広まったらおもしろい」「外国に興味を沸く」などと、さっそくポカラ野球のことに興味を持ち、学生の方からポカラチームと試合をしたい、その時にテレビや新聞、ラジオを呼んで放送してもらおうと意見をくれました。これは園田とポカラの生徒が考えていた意見ですがこれほど早く実現するとは思いませんでした。

そして、ポカラの学生（オールドアマシン、カリカ、シリシダの生徒16名）はカトマンズ大学委員会の会長のプスバ・アディカリ教授に協力してもらい2泊3日の予定でネパール初のポカラ対カトマンズの交流試合を行いました。ポカラの生徒はとても喜び初めてネパールに野球が広まった実感をもつことができたと思います。

ポカラVSカトマンズの試合結果

KU	2	0	0	0	1	0	計3点
ポカラ	0	1	0	0	2	0	計3点

ポカラ	3	1	0	0	4	計8点
KU	0	0	2	0	1	計3点



ポカラ対カトマンズの試合は両方の学生が全員でられるように2試合行いました。

1 試合目は KU の強さに驚いたポカラが緊張のせいもあって実力をだせずに同点！

2 試合目はポカラが本気をだし KU のエラーもかさなりポカラの圧勝！

園田の意見：ネパールで初めての地域対抗の試合を行い、新聞にも大きく取り上げられて大成功でした。特にポカラの学生は喜んでいました。今、ネパールの政治や情勢はあまり良くないですがその中で日本からやってきた新しいスポーツができて学生達はとても楽しんでいました。ポカラは「俺達は4年間もやっているのに負けるわけがない」といった感じで、しかしKUの強さに本当に驚いていました。2 試合目はさすがに実力の差がでたと思います。両チームとも真剣に楽しく野球に取り組んでおり、試合を見ていた私はネパール野球は成長したと確信しました。

今後、KUはどうか決定していませんがポカラと同様に野球を続ける生徒がいる限り活動を続けていきます。

ポカラ学生の意見：短期間しか野球をやっていないのにとても強い、すばらしい。ネパールでやっと違う地域と野球ができてとても嬉しい。こうやって、少しずつほかの地域にも広まれば良いと思う。けど、園田（以下 Q）は帰ってしまうし、できることなら僕達がカトマンズ大学に行って野球を教えたい。カトマンズ大学はネパールでも有名な学校だからポカラよりも野球は広まりやすいと思う。けど、お金の問題や自分の将来の問題もあるから、日本人メンバーの協力はまだまだ必要と思う。カトマンズ大学の生徒だけで野球を続けていって欲しい。

カトマンズ大学の意見：ポカラの学生と試合をしてとても楽しかった。野球はこの学校のスポーツ大会に（年に2回大きな運動会のような大会があります）参加できます。

やはり、ポカラは4年も続けているので野球を良く知っている。僕達にもQのような長期で教えに来てくれる人が必要だ。Qが帰ったら誰が野球を教えるんだ？ポカラで新しいスポーツをやっていたなんて、全く知らなかった。野球を広めるためにはカトマンズからはじめたほうが良い。大きな街だし新聞やテレビをもっと呼んでたくさんの人に知ってもら

うのが1番いいと思う。

カトマンズ大学の学生へ野球の質問をしました。

Q. 野球をやってみたいですか？

A. はい。

Q. なぜですか？

A. ネパールにもKUにとっても新しいスポーツだから興味がある。

Q. 野球のイメージはどんなものですか？

A. 道具は値段が高い、ルールはクリケットとよく似ている。

Q. ルールは知っていますか？

A. 全部は解らないけどビデオゲームやテレビゲームでやったことがあるので知っている。

Q. バッティングと守備どちらが楽しいですか？

A. 両方楽しい。

Q. KUには学生がたくさんいるけど、有名になればどうなりますか？

A. みんなに教えて（女の子も）スポーツ大会に参加できます。

Q. スポーツ大会はどんなスポーツがありますか？

A. サッカー、テニス、卓球、バスケットボール、クリケット。

Q. 今、野球で足りないのは何ですか？

A. 道具、コーチ、アンパイアとかルールも完璧じゃないです。

Q. 野球のルールで難しいのは何ですか？

A. タッチプレイとホースプレイの違い。アンパイアも。

Q. ネパールで野球が有名になると思いますか？

A. 分からない。時間がかかると思う。少しずつ色んな街に教えていったら良いと思うし、
野球道具は高いからネパールで作れるようにしたら良いと思う。

Q. そのために何が必要ですか？

A. Qのようなコーチが必要。

Q. 日本のイメージは？

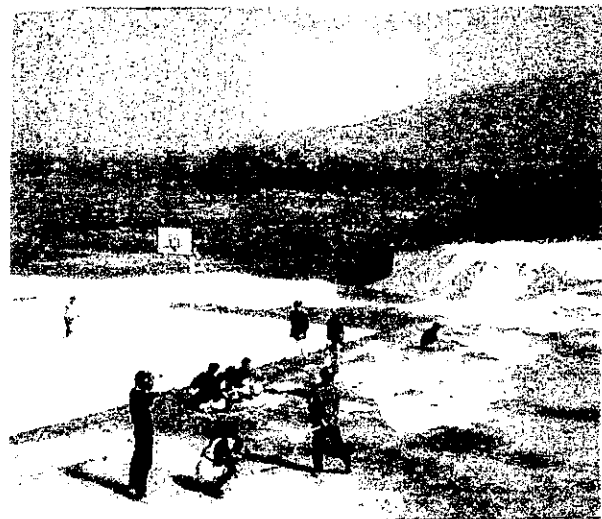
A. 綺麗、忙しい、騒がしい、人が多い、パナソニックが有名。

Q. 将来どんな仕事をしたいですか？

A. 医者、コンピューターエンジニア、建築家、など。



カトマンズ大学 VS ポカラベースボールクラブ



ネパールでの協力者の方々の話

(野球を広めることについて)

ESODEC (ビレンドラ・ヒラチャンさん) の意見

ESODEC の一員でホテルホリデーのオーナーである
ビレンドラ・ヒラチャンさんは、第1回目の研修時から
ネパール野球について協力してくださっており、野
球道具を保管してくださったりアマシンのフェンス作り
についても協力をして頂いております。



ネパールで野球を広めるには1番大切なことはポカラの多くの人々に野球を知ってもらうことです。だからアマシンだけで野球をしても広まりません。皆さんがやっているようにバルバトラや他のサッカーの競技場などを借りて色んな人に見てもらうのが良いです。

そして、学校の生徒だけでなく大人でも興味のある人には実際に野球ができる状況を作ることです。まずは新聞やラジオで野球に興味がある人を集め、アマシンのスポーツ先生といっしょに野球をしてもらい続きそうな人達でチームを作ります。大人が興味を持ってくれたら学校の生徒といっしょに市長の所に行って、ポカラベースボールチームの委員会を作ってもらい、そこからお金やグラウンドなど運営の一部分を市に要求します。

ポカラ市長が協力してくださればカトマンズにも教えることができるしチームが増えればポカラで対抗試合ができます。それをアマシンだけでなく、いろんな地域で行い、テレビやラジオ、新聞で取り上げてもらったらカトマンズにも野球は広まると思います。

今の段階では学生は考え方もまだまだ子供ですし、勉強ができないのを野球のせいにする生徒もいます。しかし、それは生徒の責任です。一部の先生方も留年することを野球の責任にします。

しかし実際、生徒だけで動くのは難しいです。それが日本と違う部分だと思います。だから、日本人が短期間でもいいので2、3ヶ月来て教えてもらいたいです。そこで日本人チーム、ESODECからお金を少しだけ給料という形であげます。そして数年後、ポカラの学生が本当に野球を広めたくて職業にしたい時は、日本人の派遣を終えて今のオールドメンバーの中でポカラベースボールクラブのコーチとして、半年間ずつと期間を決めて給料をわたしていけば良いのです。それを新しいメンバーが見れば良い見本になり長くコーチが続くと思います。

私は野球のルールは解りませんがこの活動が続くように協力者という形でこの活動を支えていきます。とても良い活動と思うのでこれからも協力していきたいです。

通訳者（ヒラカジ・サッキャさん）の意見

サッキャさんは第3回交流活動から第8回まで野球の通訳をしてもらい、ネパールの社会や国の状況などをふまえ、ネパールに野球を広めることについての話をいただきました。



昔から比べるとポカラの野球は年々発展しています。オールドメンバーは最初に比べると本当に上手くなりました。しかし、仕事や家の事情で野球ができるメンバーが減ったので残念です。新メンバーやNEWアマシン、バルバトラ、バッタラガリは短期間で上手くなっている。これはオールドアマシン、カリカ、シリシダといった古いメンバーが良い見本を見せているからだと思う。そうして、少しずつ学校が増えていけば良いと思う。

野球の委員会ができたのはいいけど、機能していないのがよくない。学校のスポーツの先生も参加してくれません。学校側は時間を合わしてくれない。

アマミルン・サルモン（ポカラの学校のお母さん方が集まった委員会）が野球というスポーツをすることをあまり賛成していません。理由は将来お金にならないからです。だから、学校の先生や校長もあまり協力してくれていません。

野球専用のグラウンド、フェンスなどをつくるのが1番良いと思います。

オールドメンバー達は近い将来、仕事をしなければならぬので野球が続くかを不安がっています。だから、バックアップがとても大切です。

まだネパールでは野球は国のスポーツ委員会に入ってません。ポカラの学生だけではスポーツ委員会に入ることはできません。ポカラの学校のスポーツの先生や校長先生に協力してもらわないと参加できません。だからまずはチームの数、学校を増やすしかないです。それからポカラだけでなく、カトマンズや色んな地域でも園田さんが教えていけば良いと思う。将来もし、参加できた場合は国から予算が出て、野球道具などを自国でつくれるようになるかもしれません。

それか国を通さずにオリンピックのアジア予選にも出ることは可能です。

生徒たちは日本や外国で野球をしたいと言っているが、ネパール人が個人的に海外に行くにも個人でお金を出すのは難しいです。サポートが必要なので、国に野球というスポーツを登録したほうが良いと思います。

私もこの交流活動はネパールの教育課程の一部として賛成して協力しています。年々生徒たちが野球を好きで上手くなっているのが見れて楽しいです。これからもずっと続けていきたいです。

会計報告

今回の活動に伴う収支報告をさせていただきます。

収入		支出	
前回より繰越金	117,446	園田健弥 派遣費	70,000
ご協力者の方々より	55,900	グラウンドフェンス建設費	20,000
街頭募金 第7回(H15.2)	45,120	第8回交流活動費	16,629
第8回(H15.8)	8,042	第9回交流活動費	5,518
学内募金 第7回(プール学院にて)	28,272	第8回交際費・雑費	3,150
バザー売上金	69,573	第9回交際費・雑費	1,365
預金利息	3	次回繰越金	21,694
計	318,356	計	318,356

たくさんの方々から、活動費及び道具の寄付を頂きました。

また、第7回の活動では、日本でご協力頂いたお金を持参し、DMヒラチャン氏、またESODECの方々のご協力により、現地の野球練習場所である、アマ・シンセカンダリースクールのグラウンドに野球のフェンスを建設していただきました。

ご協力頂いた皆様は、以下の通りです。

アスレチック BASEBALL CLUB 様 アラン・J・ベセット様 有村一夫様 和泉サークルズ様
 和泉少年野球軟式協会様 井上治子様 いぶきのボールパークズ様 岩井都蔵様 岩坂正雄様
 岩崎力様 植野雄司様 内海章雄様 L.D.マッセルホワイト様 太田垣洋子様 大屋純子様
 小川ゆり子様 沖上スポーツ様 オリックスブルーウェーブ様 梶村義行様 加羽千代美様 亀
 井慶二様 荻野正美様 川崎好重様 川口陽子様 木川田一郎様 北山泰久様 木下典様 草竹
 和信様 黒田廣美様 小阪荘園子供会様 小嶋智弘様 小西康元様 小林哲也様 権隆様 西道
 実様 幸ジュニアファイターズ様 坂本和博様 佐古田悦子様 柴田あぐに様 杉山克枝様 ゼ
 ット株式会社様 高谷耕作様 多田圭吾様 鶴野麻里子様 D.M.ヒラチャン様 寺川克様 中
 山弘一様 中村真由美様 中山雄次・昌子様 南松ファイターズ様 西尾宣明様 西川節行様
 西村嘉昭様 西村成雄様 西本匡克様 ネットワークHITO様 橋本守・真理子様 朴聖雨様
 林暁美様 藤井久仁子様 藤倉寿美子様 堀池ちづ子様 本田明様 松田浩志様 三島文子様
 御手洗佐与子様 箕浦史郎様 宮川多美恵・絢江様 村瀬晴彦様 村瀬寿代様 室山皓之助様
 森定玲子様 森美幸様 弥佐康志様 山崎美恵子様 山本みどり様 湯浅俊昭様 UCC様 吉
 田等様 吉田義男様 米田歩様

街頭募金にご協力いただいた方々 学内募金にご協力いただいた方々 プール学院大学教職員の方々 プール学院同窓会の方々 ミズパ会の方々

(50音順)

ご協力誠にありがとうございました。

尚、現地に持参したものは以下の通りです。

第7回：救急セット1箱、第8回：グローブ3つ キャッチャーミット1セット

今後の予定

第10回ネパール野球交流活動

期間：2004年2月中旬～3月上旬（未定）

場所：ネパール ポカラ市 アマ・シンセカンダリースクール

各校の目標

アマ・シン：

ネパール野球について自分達の出きる範囲で行動してもらい、最大の目標である「オリンピック出場」について真剣に考え、日本人チームと話し合う。

カリカ、シリシダ：

2校とも、より技術の向上を目指し、打倒アマ・シンを目標に練習し、少しでも他校の生徒に教えられるようになってもらう。

バルバトラ、バッターガリ、NEW アマ・シン：

まだ野球を始めて1年ほどの、試合経験の少ないチームなので、実戦形式の練習を中心に頑張ってもらう。

ナワプラバート：

ポカラ6校目の新しい学校。日本人チームとネパールのこれまでの5校のチームを見てもらい、野球の楽しさを知ってもらう。

派遣員の予定

現時点では後続の派遣員を送る予定はありません。これは、2年間派遣員を送った結果、生徒達が「日本人がいないと野球ができない」と思い込んでしまうという問題が発生したからです。

生徒たちに自立心を持ってもらうため1年間は派遣を保留することに決定しました。

これからの活動、また今後の活動に伴う資金や道具が不足しております。

皆様の温かいご協力をお願い申し上げます。

活動資金

UFJ銀行 船場支店 普通口座 3984578

ネパール野球交流活動基金

野球道具

大阪府堺市槇塚台 4-5-1 TEL：072-292-7201

プール学院大学 異文化間協働センター ネパール野球交流活動グループ

連絡先

住所：大阪府堺市榎塚代4-5-1

プール学院大学 異文化間協働センター

ネパール野球交流活動グループ

TEL：072-292-7201

ホームページ：<http://www.occn.zaq.ne.jp/nepalbaseball>

これからの国際協力「ネパール野球交流活動」に参加して

ネパールで野球交流ラリグласの会 三上真里奈

JICA 大学生エッセイコンテスト 2003 入選作品引用

私は、「ネパール野球交流活動」に参加した。大学で異文化間協働教育の一環として行われる研修旅行の1つであり、3週間程度ネパールに滞在し、現地の中高生に野球を教えることを主な活動としながら、ネパールという国の文化を学び、現地の人たちと交流する活動である。

ネパールで日本語や日本文化を紹介する活動に参加していた学生が、たまたま現地でキャッチボールをしたことからこの活動が始まった。グローブとボールを使ってキャッチボールをすると、首都カトマンズでも、第2の都市ポカラにおいても、人々がものめずらしそうに近づいてくることから、ネパールでは野球が一般的に知られていないことがわかった。日本に帰った彼に、大学の教授が、ネパールに野球を広めてみないかと持ちかけ、それに関心を示した学生が同窓会や近隣の諸団体に呼びかけて野球道具を提供してもらい、有志を募って翌年から「ネパール野球交流活動」が始まった。現在、年2回、参加者を募り、ポカラ市のセカンドリースクールで中高生程度の学生に野球を教える活動を行っており、2004年9月で第10回を迎えた。現地の生徒からの要望もあり、2001年からは、派遣員が駐在し野球を教える派遣活動も行われている。

キャッチボールというきっかけから始まった活動だが、ネパール側の NGO「ESODEC（会長 D・M ヒラチャン氏）」や学校もこれを受け入れ、野球を始めた少年達はその魅力に魅せられ、今では日本側、ネパール側双方が、オリンピック出場を目標に少しずつその実現に近づいている。日本の学生は、研修期間に現地で野球をするほか、日本でも野球道具、資金集めのために呼びかけたり、募金活動を行う。ネパールでは、生徒が自主的に動くことが難しいため、大人を中心に活動が行われているが、ネパール野球のための組織が作られたり、交流する学校の数を増やしたり、少しではあるが生徒自らが企画し募金活動も行われるようになった。

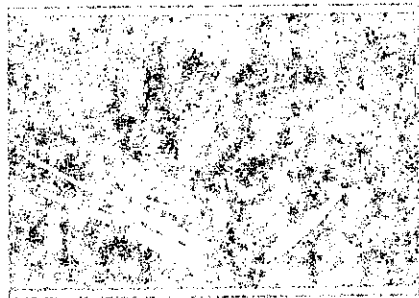
私は「ネパール野球交流活動」に参加し何度かネパールを訪れ、日本でもこれに関する活動を行ってきたが、活動が続けられるにつれ様々な問題が起こるようになった。問題が起こった最大の原因は、日本とネパールが援助国と被援助国という関係を創りだしてしまったことであった。私達日本側の学生は、双方が対等の立場に立って活動を行っていきたいと考えていたが、

ネパールという国の特質上、日本側が思うように進めら

れない状況がしばしばあった。現在、世界で最も貧しい国の一つであるといわれるネパールでは、これまでに数々の援助、協力が行われている。そのためネパールの人々はその行為に慣れてしまい、無意識のうちに完全な受身状態になってしまっていることがその原因の一つであると考えられた。そこで、なぜ交流として行われる「ネパール野球交流活動」でもこのような関係が出来上がってしまったのだろうか。

ネパールはカースト制度が一般に強く残っており、誰がどのカーストなのか名字をみればだいたい判別できるようなものである。もともと海を持たない国であり、貿易ができないために経済的に貧しい上、カースト制度による際立った貧富の差がある。貧しい家では親の収入だけでは食べていけず、児童労働も多く行われている。そのような生活の中で、人々の最大の関心事はお金であり、安定した生活である。野球という真新しいスポーツに関心は示すものの、趣味として続けていられるような状況にある生徒は少なく、何年か活動を続けるうちに、野球を続けることによって、それを仕事として食べていける状況をつくって欲しいという声が聞かれるようになった。日本の学生と一緒に野球をした生徒達のほとんどが、「とても楽しい」、「これからも続けたい」、「野球選手になりたい」などと好反応を示してくれる。しかし、半年後にまた日本の学生が訪れると、楽しそうにしていた生徒が急にいなくなっていることがある。周りの生徒に尋ねると、「家の用事を手伝わなければならない」、「勉強しなければならない」、「転校した」などの理由が挙げられる。ネパールでは教育の一環としてスポーツをすることが一般的ではない。さらにネパールの学校は、毎年末に行われるテストに合格しなければ次の学年にあがることができない。野球の練習は、毎日朝と夕方、学校が始まる前と終わったあとに行われるのだが、それが続くと生徒の中には成績が下がってしまう者も出てくる。そうになると、スポーツも教育であるという文化のないネパールでは、生徒の親や先生がそれを野球のせいにする傾向があり、生徒が無理やり野球をやめさせられてしまうことがあ





「新日本経済新聞」の「新日本経済新聞」の「新日本経済新聞」

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

（昭和十一年一月一日）

る。お金にもならないスポーツに精を出しているより、勉強をして大学を出て良い仕事に就き良い給料をもらうことのほうが大事なのである。なかには息子が野球をすることに寛容な親もいるが、彼らも心の中ではいつか日本側が野球で生計を立てられる環境を創ってくれることを望んでいる。生徒たちもそれを望んでおり、自分たちでその環境を創ることはできないから、日本側に期待を持つのである。日本人が現地に滞在し活動を行う派遣活動も行っていることを先に述べたが、これによってネパール側がさらに依存してしまうという問題も起こった。常に日本人がいることによって生徒の野球技術は向上したが、反対に「日本人がいけないと野球ができない、広まらない」との声が聞かれるようになり、現在は現地派遣も一時中断という形になっている。こうした問題が生じた理由の一つとして、一方的に物質的援助をしてしまったことが考えられる。野球を紹介したいと考えた日本の学生は、ネパールに道具がないことを知り野球道具を日本で集めた。それをそのまま現地に持って行き彼らに与えることからネパールでの野球が始まった。もし、日本の野球道具を見本として持参し、それをもとにネパールで独自の道具をつくることから始めればこのような問題は起こらなかったであろう。そのために日本側とネパール側が試行錯誤し、日本の野球道具に匹敵するものをネパールの材料で作るためにはどうすれば良いかを考えていれば、その過程を通して対等な立場での活動が行われていたであろう。それによって、ネパールの生徒の中に自立心が生まれ、野球で生計を立てることにしても、彼らはもう少し自主的に行動するようになっていたかもしれない。交流活動であるはずの活動ではあるが、援助国、被援助国という関係がしっかりと出来上がってしまっているように感じられた。

「ネパール野球交流活動」は、その名の通り交流活動であるが、援助国、被援助国という関係から見ると、ある部分では協力活動であるとも考えることもできる。協力活動においても、相手国の自立は重要な課題であ

るとすれば、この活動から見えることを、国際協力の中でどのように生かすことができるだろうか。一時的な物質援助ではなく、相手国の自立を促す国際協力を行うのであれば、日本などの援助国側が気をつけるべき点として、必要以上に物資を持ち込まないこと、できるだけ現地の道具を使って類似品を製作するように心掛けることが考えられる。それぞれの土地にはそれぞれの文化があり、その土地で他国の物を根付かせるためには、多少形を変える必要もあるということも

必要なのではないだろうか。相手国は自国ではなく、自国の文化を持つわけでもない。自国の既製品を持ち込むことが協力と呼べるのか、もう一度考え直す必要があるようだ。私達も、現地の生徒と一緒にグローブの紐の通し方を勉強したり、ネパールにある材料を使ってベースを作ることを考えたりしたが、それを彼らに示すことによって、彼らから道具を作るための提案が出るなど、自立を感じさせる行動を見ることができた。なぜ自立性がないのか、自立心を持ってもらうためにはどうすれば良いかをもっと早く考えるべきであった。最近では、日本でも対等の立場での協力活動を意識する人が増えてきたようだが、ここで取り上げた「ネパール野球交流活動」をはじめ多くの活動では、まだまだ対等の立場で行うことは難しいようである。しかし、ネパール野球交流活動では、活動を始めて4年目に、生徒が見よう見まねでベースをつくって練習に持参するといった自主的な行動も見られるようになった。このようにネパール野球交流活動に限らず、現存する活動は全て、双方が対等の立場だと考えながら活動を行える可能性を持っているはずだ。しかしその可能性を形にするためには、協力活動に参加する一人一人が、もう一度相手国の自立ということについて考え直す必要がある。そして疑問を持った多くの国民が協力の意味をもう一度考え、政府、民間に関わらず対等の立場での協力活動が行われるようになった時こそ、日本が本当に国際協力のトップ・ドナーとなれるのであろう。



**ネパールで野球交流リーグラの会
(リーグラス=ネパールの国花「しゃくねげ」)**

Official
Website

<http://www.nepalbaseball.net>

お問い合わせ：

nepal89@hotmail.com

活動への要望やコメント等がございましたら、お気軽にご連絡ください。今後ともご声援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。会長 小林洋平(会員)

[illegible][illegible]